

宮古島初記録となるハマガニ
(甲殻亜門：十脚目：短尾下目：モクズガニ科) の報告

Report on *Chasmagnathus convexus*
(Crustacea, Decapoda, Brachyura, Varunidae) collected as a new record from
Miyako-jima Island, Ryukyu Archipelago

砂川栄喜

Eiki Sunakawa

〒906-0007, 宮古テレビ株式会社, 沖縄県宮古島市平良字東仲宗根 968-9

Miyako Television Co. Ltd., 968-9 Higashi-nakasone, Hirara, Miyakojima, Okinawa 906-0007, Japan

Abstract

Chasmagnathus convexus (Varunidae) is reported based on a specimen collected from Miyako-jima Island, Ryukyu Archipelago, southwestern Japan. This species is reported for the first time from Miyako-jima Island based on the voucher specimen.

Key words: *Chasmagnathus convexus*; New record; Miyako-jima Island

はじめに

藤田 (2020a, b) によると、宮古諸島から10種のモクズガニ科 *Varunidae* のカニが記録されている。このほか、前之園・佐伯・石田・西垣 (2020) によって2種のモクズガニ科のカニが記録されている。今回、宮古諸島から記録のないハマガニ *Chasmagnathus convexus* (De Haan, 1835) の生息を宮古島で確認したため、標本に基づく確実な記録としてここに報告する。記録の証拠標本は、70%エタノールの液浸標本として、宮古島市総合博物館に收藏されている。標本の大きさは甲長 × 甲幅で示した。

方法

調査は、2023年10月上旬から12月上旬ま

で、午後3~4時に5回、午後7~9時に20回実施し、生態を観察した。巣穴から離れて活動していた5個体を徒手で捕獲し、腹部の形で雌雄を判別した。このうち雄2個体(標本個体含む)と雌1個体の大きさを計測した。標本個体以外の4個体は、捕獲場所に放逐した。

結果

標本個体. N1123-001、雄 (38.7 × 49.6 mm)、平良島尻、2023年12月1日、砂川栄喜採集。

一時捕獲個体. 雄 (33.7 × 43.2 mm)、雌、(30 × 40 mm)、平良島尻、2023年11月30日、採集場所に放逐。

調査では、雄3個体、雌2個体、雌雄不明

2 個体の計 7 個体を確認した。標本個体は、12 月 1 日午後 4 時頃に雄 1 個体を捕獲した。大きさを計測した一時捕獲個体は、11 月 30 日午後 3 時頃に雌 1 個体、同日午後 7 時頃に雄 1 個体を捕獲し、甲長、甲幅を計測後、捕獲場所に放逐した。

形態の特徴. 標本個体(写真 1)は、側面から見て背面が丸く膨らんでおり、甲に短毛が密生している。額中央に明瞭な溝があり、甲の前縁と側縁が橙色で縁取られている。鉗脚は太く発達し平滑で、鉗部は鮮やかな青紫色で先端にかけて白色をしている。これらの特徴は、三宅(1983)のハマガニの特徴と一致した。

生息状況. ハマガニ *C. convexus* が生息していたのは、宮古島北部の島尻マングローブに隣接した農地の脇だった。生息場所は淡水。一带は区画整備事業で水路が設置されており、ハマガニは、土の水路の壁や斜面の上部に巣穴を掘っていた。陸域のほか、水路でも活動していた(写真 2)。

10 月 5 日午後 8 時頃および 11 月 30 日と 12 月 1 日の午後 4 時頃には、水深 10mm ほどから 50mm ほどの場所で活動する様子が観察された。11 月 30 日の午後 3 時頃には、標本個体が巣穴の出入り口にいたクロベンケイガニ *Orisarma dehaani* を追い払い、巣穴を奪う行動が観察された。標本個体は、捕獲するまで、奪った巣穴を利用していた。12 月 1 日午後 4 時頃には、標本個体が水深 10mm ほどの場所で、枯れたイネ科植物の穂の芯を採食する様子が観察された。同所的にクロベンケイガニが生息し、さらに陸域では、オカガニ *Tuerkayana hirtipes*、オオオカガニ *Cardisoma carnifex* が生息していた。また、生息場所の水域では、モクズガニ *Eriocheir japonica*、オオヒライソガニ *Varuna litterata*、オオウナギ *Anguilla marmorata*、

グッピー *Poecilia reticulata*、ヤエヤマイシガメ *Mauremys mutica kami* などが観察された。また、10 月 1 日午後 8 時頃には、宮古諸島では下地地区の 1 カ所ではしか確認されていないシロツメアシハラガニモドキ *Neosarmatium rotundifrons*(前之園、2015)の雌の抱卵個体(写真 3)が確認された。

写真



写真1 N11-23-001、雄、38.7 × 49.6 mm



写真2 水域で活動中の雌の個体



写真3 シロツメアシハラガニモドキの抱卵個体

謝辞

湯屋秀捷氏（宮古島市総合博物館）には、標本の作製・収蔵に関してご協力いただいた。佐久田吉記氏（宮古テレビ）には、捕獲個体の計測の際にお世話になった。砂川詩織氏には英文

作成でお世話になった。心より感謝申し上げます。

引用文献

藤田喜久 (2020a). 宮古諸島十脚目甲殻類目録 (海

産種) . 宮古島市史第三卷自然編 第 I 部みやこの自然 別冊. (編) 宮古島市史編さん委員会. 宮古島市教育委員会

藤田喜久 (2020b). 宮古諸島十脚目甲殻類目録 (陸棲・陸水棲種) . 宮古島市史第三卷自然編 第 I 部みやこの自然 別冊. (編) 宮古島市史編さん委員会. 宮古島市教育委員会

藤田喜久 (2007). 宮古諸島の湧水に生息する十脚目甲殻類. 宮古島市総合博物館紀要第 11 号. 宮古島市教育委員会

前之園唯文・佐伯智史・石田憲・西垣孝治(2020). 琉球列島におけるケフサアシハラガ二属(十脚目: 短尾下目: モクズガニ科)2 種の分布記録

前之園唯文(2015). 琉球列島の宮古島および西表島より採集された日本初記録の シロツメアシハラガニモドキ (新称) (甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: ベンケイガニ科)

三宅貞祥(1983). 原色日本大型甲殻類図鑑 II (保育社)